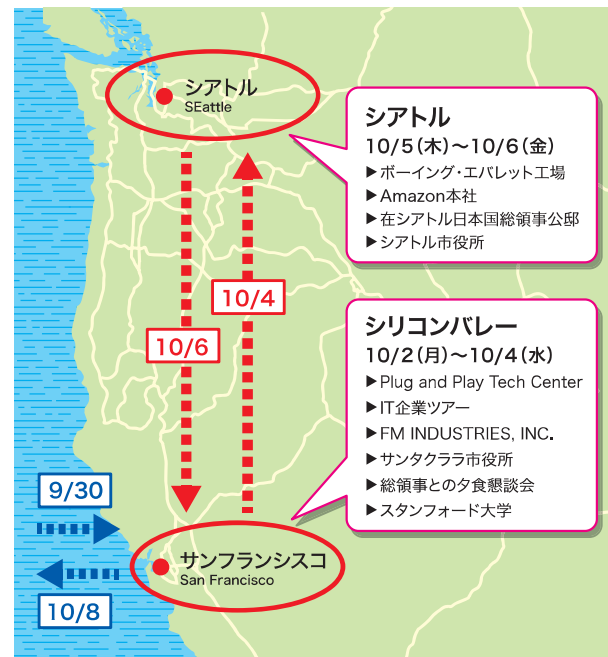


## 米国西海岸経済視察団

中経連は9月30日(土)～10月9日(月)の10日間、水野会長を団長、大島副会長、安藤副会長を副団長、増田専務理事を団事務局長とする総勢32名の経済視察団を、米国西海岸のシリコンバレー・シアトルの2地域に派遣した。

### はじめに

中経連は、スタートアップ・イノベーションの創出、まちづくり・都市計画、航空宇宙産業について、現地の企業や行政機関などの取り組みを把握する目的で視察団を派遣した。いずれの視察先においても、各団体トップの強いリーダーシップの下、オープンイノベーションを駆使した新規事業化やその支援に注力していた。さらに、優秀な人材を惹きつけるための魅力あるまちづくりに向けた取り組みも活発に行われていた。



### シリコンバレー

#### 1. Plug and Play Tech Center

Plug and Playは、2006年にシリコンバレーで創業し、現在世界18カ国・約50拠点を展開しているインキュベーションセンターであり、DropboxやPayPal、Lending Clubなど多数のユニコーンを輩出している。

視察では、入居企業の一つであるNEC Corporation of Americaのスタートアップ支援

に関する取り組みや、最先端のAI・半導体技術を活用したスタートアップの事例について説明を受けた。また、同社は、対面でのイベントを100回/月以上開催しており、世界から約3,000人が集まる「デモデー」と呼ばれるイベントをはじめ、スタートアップと企業、投資家間の交流促進に注力している。



Plug and Play Tech Centerの外観



アップルパーク(新本社)でのVRを用いたプレゼンテーション

#### 2. FM INDUSTRIES, INC. (日本ガイシグループ)

FM INDUSTRIES, INC.は、半導体製造装置に使われる金属部品の加工ならびに表面コート・モジュール製造を基盤事業とする日本ガイシのグループ企業である。

現地では、グループ全体の事業内容や半導体製造工程の概要を説明いただいた。また、視察する工場では、セラミック素材やホットプレス焼成、金属加工、溶接、金属接合など、さまざまなキーテクノロジーの中でも、主に「成膜」工程の製造装置に使われる製品を生産していることも紹介された。その後、工場に移動し、同社の強みである金属とセラミックスそれぞれの特性を生かした金属加工などを見学した。



FM INDUSTRIES, INC.によるプレゼンテーション

#### 3. サンタクララ市役所

サンタクララ市のコンベンションセンターでは、ギルモア市長から講演いただいた。同市は電力会社のシリコンバレー



ギルモア市長による講演

パワー社を運営することにより、競争力のある電力コストの実現が多くの企業を呼び込んでいることや、温室効果ガス削減に向けてエネルギー効率が高い建築物への変換を促進する制度を設けていることなど、行政主導の都市開発の取り組みを紹介した。

その後、実施したウォーキングツアーでは、現在開発が進んでいる新都市のジオラマや同市が所有する収容人数8万人を誇るリーバイス・スタジアムを見学した。新都市開発は、広大な面積を誇るゴルフ場(239エーカー≒約1km<sup>2</sup>)の跡地に、オフィスやホテル、飲食施設、エンターテインメント施設を20年間のスパンで整備する計画で、建設に関わる1万人の労働者を含め、全体で約3万5千人の雇用創出を目指している。



サンタクララ市 都市計画に関するプレゼンテーション

#### 4. スタンフォード大学

スタンフォード大学では、アメリカ・アジア技術経

営センター長を務めるダッシャー特任教授から、シリコンバレーの概要ならびにスタートアップの課題、日本企業のビジネス環境における特徴について講義を受けた。ダッシャー教授は、「今後の経済発展にはイノベーションが不可欠である。特に、革新的イノベーションを創出するには、インセンティブを付与する制度作りが必要である」と強調した。また、「日本と米国ではスタートアップの創業者に考え方の相違がある。具体的には、米国の創業者はエグジット(出口)を設定し、株式を10～25%のみ保有するだけで会社に留まらない特徴があり、次の起業家・投資家が生まれる好循環につながっている」と説明した。



スタンフォード大学 ダッシャー教授による講演会(上)と同大学構内(右)



### シアトル

#### 5. ボーイング・エバレット工場

ボーイング・エバレット工場は、床面積39万8千m<sup>2</sup>(東京ドームおよそ89個分)、容積1,330万m<sup>3</sup>と、建築物として世界最大の容積を誇り、約3万人の従業員を雇用している。同社民間航空機部門のディレクターから、工場の概要やサステナビリティを優先する会社方針、コロナ禍からの順調な需要回復について説明を受けた後、新型777型機の最終組立工程を見学した。

その後、日本航空および全日本空輸の駐在員とランチミーティングを実施。駐在員は、「同工場では、多くの日本の技術を導入した787型が生産されていたが、他工場に移管されてしまった。現在では、777型、767型の製造を担っており、777型の最新モデルには、カーボンFRP\*など787型の技術が多数転用されており、日本の技術が生き続けている」「日本では、セントレアのみに就航している部品輸送専用機『ドリームリフター』が、同工場に隣接する



ペインフィールド空港に世界各地から部品を届けている」など、日本とのつながりを確認した。

※炭素繊維とプラスチック樹脂を組み合わせた複合材料。



ボーイング・エバレット工場での集合写真

### 6. Amazon本社

本社およびアマゾンジャパンの関係者からは、「サステナビリティな社会の実現に向けては、2025年カーボンニュートラルの実現や官民パートナーシップによる投資およびイノベーションの創出につながるスタートアップへの投資が必要不可欠である」と力説いただいた。また、ワシントン大学のブルーナー教授は、「異常気象の頻発化は、あらゆる産業に影響を与えるため、AIを活用しながら効率的に気候リスクを分析することが有効である」と強調した。続いて、『自然環境と人が共存するワークスペース』をコンセプトに「アマゾン・スフィア」と呼ばれる、植物園のような球体型のユニークなオフィスを見学。同社の経営理念の一つである「地球上で最も安全な職場を提供すること」を体感した。



### 7. 在シアトル日本国総領事公邸

在シアトル日本総領事公邸を訪問し、角潤一首席領事との懇談会を実施。角氏からは、ワシントン州の歴史や政治、日本との貿易などについて

ブリーフィングいただいた。その中で、同氏は、「リベラルで民主党支持者が多いこと」「平均所得が1,200万円と高い水準であること」「面積は日本の約半分を擁する一方、人口は愛知県とほぼ同じ約770万人であり、その内、アジア系人種が約10%を占めること」などについて説明いただいた。また、同氏は「主要産業は、ボーイングを筆頭とする航空宇宙産業やアマゾン、マイクロソフトなどのIT産業と多岐に渡る」「ワシントン大学などの世界トップランクの大学が所在することもあり、高度な人材を擁することが特徴である」と言及した。加えて、「比較的、雨が多いシアトルは、働く人が余暇に興じ過ぎることなく仕事に集中するため、シリコンバレーより優位ではないか」と、シアトルの風土や人々の気質についてユーモアを交えて紹介した。



シアトル市内を一望できる高台に建つ公邸

### 8. シアトル市役所



シアトル市役所での意見交換

シアトル市役所では、経済開発責任者から、まちづくりに関する説明を受けた。「同市は、美しい自然だけでなく深い港湾があり、海運による貿易の発展が多様な産業の形成につながっている。一方で、近年の人口増加により、交通基盤や学校、住宅などの生活インフラの整備が追いついていない」など、強みと課題を語った。また、同市は、「Greater Seattle Partnership」と呼ばれるプロジェクトを実施しており、市長のリーダーシップの下、産学官が連携し魅力あるまちづくりに取り組んでいる。都市の発展やイノベーションの創出を成功させる秘訣は「人材育成」「教育」「リスクを負ってチャレンジする風土」であることを力説いただいた。

## シリコンバレー広域図



[国際部 川合]